

鯉淵学園の思い出

今回の鯉淵学園の思い出は、加藤 整さん(10期生)が引き続き書いてくださいました。

学園の全寮生活で得たもの

私は昭和28年4月に豊岡実高同級の奥田和夫さんと一緒に鯉淵学園に入学しました。豊岡を午前10時過ぎの列車に乗り、友部駅に着いたのが翌朝8時過ぎだったように思います。まだ新幹線はありませんし、急行列車に乗るような余裕もありませんから夜行の普通列車です。学割(50%引き)で、友部駅まで片道610円でした。隔世の感があります。

当時、鯉淵学園の本科は2年制で、全員寮生活(全寮制)でした。従って、食事は自治会活動の一環として1日3食とも学生(炊事当番)が当番制で作っていました。学園当局は生活課がこれにアドバイスをする立場で、献立から食材の仕入れなどを担当していました。学生の炊事当番は、学園生活課の指導に基づいて毎日の食事を作るわけです。こうして毎食約200人分の食事を作るのですから大変です。時々炊事当番が朝寝坊して講義が始まる時間に間に合わず、担当の先生に講義の開始時間をずらしてもらうようお願いにも走ったこともありました。

また、寮の清掃・管理のために掃除当番制度が布かれていました。掃除当番の任務は寮の掃除と警備です。いずれも教育の一環に位置付けられていて、該当者は午後の農場実習は免除されていました。

このように自治会組織で自主的に運営していた炊事(食事当番)を学生の当番制から専任の組織にゆだねることになったのは昭和31年からで、この切り替えを中心になってやり抜いたのが福垣道男さん(12期生、八鹿町出身、故人)です。就業規則、雇用契約など諸規程から従業員の採用、給与、管理など、初めて手がけることばかりで、苦労が多かったことと思います。福垣さんは卒業時に小出賞を受けられましたが、卒業後郷里に帰られるときに、小出夫人にお礼を言いたいとのことで、私も一緒に東京の夫人を訪ねました。小出奥様も大変お喜びだったことを思い出します。

いま考えてみると、この全寮制度のもとで培われた全

国の多くの同志との繋がりが、鯉淵学園で学んだ者にとって大きな財産となり力になっているように思います。これは他の教育機関ではみられないことでしょう。小出先生や鞍田先生が考えておられた教育の基本精神の一つも、そんなところにあったのではないかと思います。

加藤 整(10期生)

頑張っています！同窓生

今回の「頑張っています！同窓生」は、大字路子さん(23期生)、小林 徹さん(24期生)、小森英逸さん(31期生)を取材させていただきました。ご協力ありがとうございました。

思いやりの心を大切に

大字路子さん(23期生)



自宅前の庭園にて

10月5日、稲株の田圃を赤とんぼが元気よく飛んでいる景色を見ながら豊岡市清冷寺にお住まいの大字路子さん(23期生)をお訪ねしました。ちょうど、お弟子さんに茶道を教えられる時でした。「一緒にどうぞ」というお言葉に甘えてお茶をいただきました。大字さんへの取材は、茶道教室が終わってからということで、少しかお茶の世界を楽しみました。

鞍田先生の教えが普及員人生に大変役立った

大字さんは、昭和 41 年に鯉淵学園農村生活科に入学されました。恩師は当時の鞍田学園長で、農家、農村へのあたたかい思いがあふれる講義でいつも楽しみにされていたそうです。「この鞍田先生の講義は農家、農村に寄りそった内容であった。先生のテストはいつも論文形式だったので、文章のまとめ方を学ぶことができた。これが後の普及員人生に大変役立った」と先生との思い出を話されました。寮生活では、完全な自治であったために学生自らが計画し、協力して運営していくことを学んだそうです。これも普及員になってからの地域づくり、グループづくりに大いに役立ったと話されました。自治会活動では農学ゼミ部長や自治会役員を経験されたので、これについても後の普及員活動に役立ったそうです。学生時代はわずか 2 年間であったが、勉学と寝食を共にした大切な友人が全国にでき、今も交流を続けていると話されました。

地域や農家のために取り組んだ 41 年間

昭和 43 年に鯉淵学園を卒業後、兵庫県に就職し最初に配属された八鹿農業改良普及所が 41 年間にわたる生活改良普及員人生のスタート時点だったそうです。その後、豊岡農業改良普及所、和田山農業改良普及所、浜坂農業改良普及所、中央農業技術センター普及指導室に転勤され、生活改善グループの組織化、生活環境整備、高齢者支援対策、健康づくり対策、新しい村づくり対策、農産加工活動、特産物開発、集落排水処理施設の整備、環境創造型農業の推進、農家レストラン・農家民宿などのアグリビジネスの育成、農漁村女性組織体制づくりと女性登用の推進など、数々の事業で多大な功績をあげられました。この功績が



作成された多くの冊子

認められ、昭和 63 年に知事表彰を受賞されました。その間、活動に必要な多くの冊子づくりに手がけられ、今でも普及所で活用されているものが多いそうです。

特に印象に残っている仕事をお聞きしますと、集落排水処理施設の整備などを話され、この生活排水施設の整備を山東町がモデルケースで取り組み、この取り組みを先進事例として東京で発表をしたり、手作り推進ビデオを作成して全国に配布し活用されたそうです。そのほか、「農家の所得向上のために取り組んだ農家レストランや農家民宿への指導・支援が国や県から高い評価を得られた。このことが地域全体の活性化や農家の自信につながったのではないかと過去の記憶を辿りながら話されていました。

お茶は日本の文化、もてなしの心

趣味は「お茶」で、高校生の頃から習い始め、今日までずっと続けられています。県職の時は、仕事と離れて

ホッとする時間を大切に、リフレッシュしたい時とか、自分を磨く場として週 1 度「お茶」を続けてこられたそうです。平成 7 年からご自宅の離れで週 2 回（木・土曜日）茶道教室が開かれ、お弟子さんの口コミにより人数が増え、今では 12 名が稽古に励んでおられます。大字さんは「茶道教室が続けられるのは、主人の理解があるからです。お茶は日本の文化、もてなしの心であり、季節感を大切にして暮らしを楽しんでほしい。また思いやりの心を大切にする人材を育てたい」と笑顔で話されていました。



指導中の大字さん



お弟子さんと一緒に

茶道で地域社会に貢献

兵庫県を退職後、平成 19 年から現在まで豊岡市中筋公民館で茶道教室（毎月）や文化祭のお茶席を開設されるなど、地域社会への活動も積極的に取り組まれています。また、平成 19 年から平成 26 年までの 8 年間、茶道（裏千家）の淡交会但馬支部役員を務められ、平成 25・26 年は副幹事長の重責を果たされました。さらに平成 22 年から平成 25 年の 4 年間、



今年のお茶会で

兵庫県立但馬文教府みてやま学園の副委員長も務められました。

新しい生き方にチャレンジ

今後の暮らしやライフワークをお聞きすると、いくつかあげていただきました。まず、一つ目は「季節感のある暮らしが薄らいでいく中で、四季の移ろいを大切にしたい茶道の世界を社中の皆さんとともに楽しみたい」、二つ目は「家庭菜園で栽培した旬の無農薬野菜や果実を食べることができる農家の暮らしに感謝し、収穫したもので手作りの加工品を作って楽しみたい」、三つ目は「古き良き物を大切にしたい住まいづくりとともに、心の安らぎがあり、広い空間でいつでもだれでも迎え入れ、囲炉裏で楽しく集い、語り合う暮らし、こんな田舎暮らしの良さを大切にしていきたい」、そして四つ目は「平成 22 年からチャレンジしている俳句は暮らしの中での目線が広がりとても楽しい。また平成 27 年からクッキング教室に参加している。プロの料理人から教わることで多く食卓が豊かになった。これからも新たなチャレンジをしてみたい」と将来を見据えた大字さんの新しい生き方を話されました。

同窓会は年齢を超えた交流を

最後に同窓会に対して意見、要望と学生諸君へのメッセージをお願いしました。同窓会支部活動は「参加した人が年齢を超えて楽しく交流できる場であってほしい」と要望されました。また現役の学生諸君には「完全自治の鯉淵学園で学ぶことがいっぱいです。自信と誇りをもって楽しく充実した学生生活を送ってください。友達は宝です。全国に友達をたくさん作ってください」とあたたかい励ましの言葉をいただきました。

私自身、古民家にとっても興味があったので、取材の最後に、立派な梁を活かした吹き抜けと築 90 年の古民家の趣をそのまま残したモダンなご自宅を案内していただきました。取材を通して大字さんの人情味あふれる思いやりとチャレンジ精神には大変驚かされ、とても勉強になりました。大字先輩、いつまでも若々しくお元気で活躍されますようご期待申しあげます。

自然体で生きるのがいい

小林 徹さん (24 期生)



カフェでの小林さん

10 月 1 日、沿道に彼岸花やコスモスが咲き誇る国道 175 号線を走り、丹波市市島町北奥にお住まいの小林徹さん (24 期生) をお訪ねしました。白鳳時代 (7 世紀後半) の寺院跡につくられた公園と 6 月に咲く 5 万本の花菖蒲で知られた三ツ塚史跡公園内にあるレストラン・カフェで小林さん取材しました。

忘れられない宮島先生の容姿と喋り方

小林さんは県立氷上高校を卒業後、昭和 42 年に鯉淵学園農協科に入学されました。入学された動機は、家の光という雑誌に鯉淵学園の入学案内が掲載されていたので、当時地元の農協で参事をされていた方に相談して決めたそうです。恩師は宮島先生で独特の容姿や喋り方が忘れられなく、今でも覚えているそうです。農協科特有のモデル農協では、「タカモリ」という名称の農協の

組合長に指名され、グループ員と楽しく活動したことが懐かしい思い出であると話されていました。寮生活をお聞きすると、「規律が厳しい寮生活だった」と当時のことを思い出しながら話されていました。専攻は「農業経営の仕組みと農産物流通」であり、東京の神田市場の視察もして白石先生の指導のもとで卒論を仕上げたそうです。

学生時代の研究が仕事に活かされた

学生時代に農産物流通などを専門に研究されたので、昭和 44 年に鯉淵学園を卒業後、兵庫県経済農協連 (現全農兵庫県本部) に就職されました。最初に配属された部署は園芸部であり、そこで野菜の流通を担当されたそうです。その後、生産振興部などに異動され、最後は地域統括部エリア長として担当地域の各農協に対して生産販売事業の支援に積極的に取り組まれるなど多大な功績をあげられました。平成 18 年に全農兵庫県本部を定年退職され、その後関連会社に 2 年間勤務されました。

関連会社を退職されたあと、平成 21 年に丹波ひかみ農協の理事に選出され、現在は 3 期目だそうです。「最初は総務担当であったが、現在は営農経済担当で来年が改選年だ」と話されていました。地域社会への関わりをお聞きすると、「平成 27 年と 28 年の 2 年間、地域のコミュニティセンターの事務局をした。仕事は地域の祭りなどのイベント、研修会、市からの補助金事務などをしていたが、休みがないほど忙しかった」と当時を振り返り話されていました。

自然体で生きるのが一番

小林さんの農業経営は、25a の田でコシヒカリを生産されておられます。生産した米は主として J A に出荷され、残りを自家消費にしたり親戚などに配っておられます。畑は 10a で四季を通じて野菜を栽培され、その野菜を丹波ひかみ農協本所に隣接した野菜直売所に出荷されておられます。ただ、現在の野菜直売所は自宅から遠方にあるため、地元で農協の野菜直売所を設置してほしいそうです。これからの暮らしをお聞きすると、「普通のままで生きていきたいと思っている。無理しても体を壊してはなんにもならない。自然体でありのままで生きるのが一番」と和やかに話されました。

最後に学生諸君にメッセージをお願いすると、「自分の信念を持ち、前を向いて進むことです」と笑顔で話されていました。取材の中で「よい格好せんでもええ。人はありのままに生きるのが一番や」と言われたことがとても印象に残っています。小林先輩、いつまでもお元気で活躍されることを祈っています。



農業を諦め医療の世界へ

小森英逸さん (31 期生)



自宅玄関前での小森さん

台風 22 号が去り、久しぶりに好天に恵まれた 10 月 31 日、丹波市氷上町市辺にお住まいの小森英逸さん (31 期生) のご自宅をお訪ねしました。手入れが行き届いた庭園を通り、ご自宅の応接間で取材しました。小森さんとは、今年 6 月に篠山市で開催された兵庫県同窓会支部主催の「鯉淵ひょうごのつどい」でお出会いました。

特別研究は礫耕栽培

小森さんは、地元の氷上農業高校を卒業し、昭和 49 年に鯉淵学園農業科 (3 年制園芸コース) に入学されました。鯉淵学園に入学された動機は、「農業をしていた父親の影響でその後継者になろうと思った。また高校時代に鯉淵学園という学校を知り進学しようと思った」と話されました。恩師は担任の坪野敏美先生であり、特別研究は「礫耕栽培の液肥管理」というテーマで卒業論文を書かれました。礫耕 (れっこう) 栽培とは、土ではなくて砂利を使った栽培方法で、養分となる肥料を水に混ぜて、その砂利の畑に流すので効率の良い栽培方法だそうです。当時、小森さんのお父様も全国でも珍しい礫耕栽培でトマトやキュウリなどを生産されていたので、必然的に研究テーマは礫耕栽培になったそうです。最終学年で実施される特別研究の研修旅行では、坪野先生を含めて 6 人で自動車を使い東北地方に出かけたそうです。特に「岩手の三陸海岸で先輩から養殖ホタテやホヤを食べさせてもらい、大変美味しかったことを思い出す」と楽しかった研修旅行を話されました。

多くの友人と過ごした寮生活

寮生活をお聞きすると、「高校時代に胃潰瘍の手術を受けたため、入学当初は不安を抱えながら生活していた。その時に学園の同期生や先輩達が大変気遣ってくれて、徐々に寮生活にも慣れ、麻雀・酒・タバコも覚えた。また、夜中にラーメンを作ったり、鍋でご飯を炊いたりし

て、多くの友人と一緒に皿や鍋蓋で同じ釜の飯を食べた」と当時を思い出されました。自治会活動では、医療互助部に入り寮の常備薬の管理をされていたそうです。

苦労して看護師資格を取得

小森さんは昭和 52 年に鯉淵学園を卒業され、学生時代に会得した専門知識で家業の農業を継ごうと思われたそうですが、お父様から「これからの時代は農業では食べていけない」と強く反対され、仕方なく就職の道を選ばれたそうです。しかし、当時はオイルショックで就職もままならない時代であり、どこの団体・企業も正職員としての採用は難しく、やむなく氷上町役場や県農林事務所治山課の臨時職員、ゴルフ場のゲストハウスでバーテンを経験されたそうです。その後、昭和 56 年に氷上町議会議員の紹介で町内にある精神科の香良病院に就職され、働きながら 2 年間柏原町にあった氷上郡医師会准看護専修学校に通学されました。そして念願の准看護師の免許を取得されました。次の 3 年間は、同じく勤務しながら西宮市にある兵庫医大の武庫川看護学校に通学し、苦労されて正看護師の免許を見事に取得されました。当時、男性の正看護師は全国でも 6,000 人程だったそうです。

看護師・透析技師として患者に向き合う

さらにその後、篠山市にある岡本病院に就職され、7 年間の腎臓内科、泌尿器科で人工透析を担当されました。その後は滋賀県甲賀市にある甲賀病院という大病院にも 4 年間就職され、救急医療・脳外科・消化器外科の看護を担当されました。平成 11 年からは故郷の氷上町に戻り、西脇市にある大山病院に就職され、病棟を 2 年間、人工透析センターを 14 年間担当されました。この大山病院で 60 歳の定年を迎えられ、現在は非正規の常勤職員として引き続き人工透析センターで勤務されています。定年までの現役時代で、最も印象に残っていることをお聞きすると、小森さんは「阪神淡路大震災で被害に遭われた阪神間の患者さんが透析施設を求めて篠山・丹波の病院に来られ、臨時透析を夜中 3 時頃まで連日提供したことが印象に残っている」と話されました。また、「当時は医療技術が進歩していなかったもので、患者さんに使用した針を誤って自分に刺してしまう医療事故を起こし C 型肝炎に感染。治療の副作用でうつ病となり、仕事をしながら入院していたことを忘れることができない」と懐かしそうに話されました。

老後対策は資産活用で

小森さんは、地域への活動にも積極的に取り組まれています。定年前の 56 歳からの 2 年間は農会長、その後の 2 年間は自治会の理事を務められました。現在は山林管理組合の役員として活動をされています。これからのライフプランをお聞きすると、「老後の対策として、年金だけでは生活が苦しいと思い、自宅裏の空き地を利用して 10 戸の集合住宅を建てる予定である」と資産活用

の方法を話されていました。農業については田が2反8畝で米を栽培され、あとの2反は休耕田となっているそうです。

最後に小森さんからは「鯉淵での学生時代を話せるのは同窓会しかないので、同窓会活動は続けていってほしい。また参加すれば元気がもらえるような活動をしてほしい」という同窓会に対しての要望を聞かせていただきました。小森さんが病院に勤務されているとお聞きして取材をしましたが、農業への志を諦めて、農業とは異なった医療の世界でこれほどまでに活躍されているとは私自身とても驚きました。小森さん、これからも元気で活躍されることをお祈りいたします。

同期会の情報

同期会の開催内容を毎回掲載しています。最新の同期会情報があれば編集者までご連絡ください。

24期生が神戸で全国大会を開く



ホテルで記念撮影、ハイポーズ

鯉淵学園24期生全国大会が平成29年11月13日から14日、兵庫県神戸市にある「シーサイドホテル舞子ビラ神戸」で開催されました。この大会は全国をブロックに分け、3年ごとに持ち回りして開いているもので、今回は近畿地区各府県同期生が当番となり大会を企画し、全国から54名の同期生が参加されました。この大会を迎えるあたり、近畿地区各府県同期生が実行委員としてそれぞれ役割を分担したほか、計6回の打合せ会で大会内容を詳細にわたり検討するなど綿密に準備されました。私はこの大会の特別協力委員として準備段階から加わり、当日は写真係で取材を兼ねて参加させていただきました。

最高に盛り上がった初日

夕暮れに映えた太陽が沈み、パールカラーでライトアップされた世界最長の吊り橋である明石海峡大橋が見える会場で1日目の催しが進められました。午後5

時に参加者全員で記念撮影をしたあと、和歌山県松浦克仁さんの司会で総会が始まり、物故者への黙祷、大会実行委員長兵庫県長尾輝夫さんの挨拶、日程説明、次回開催地（関東地区）の報告とその代表者である群馬県田部井敏明さんの挨拶へと進み、最後に参加者への手土産紹介（黒豆菓子とジビエ加工品）がありました。その後、懇親会に移り、まず奈良県堂阪清文さんによる乾杯の発声があり、続いて近況報告はブロックごとに自己紹介を兼ねて行われました。楽しい懇親会を次回開催地の関東地区代表者が中締めしたあと、最後は奈良県堂阪美寿恵さん、兵庫県吉川千鶴子さんがリード役となり、学生時代を思い出しながら全員が互いに肩を組んで寮歌を斉唱されました。このあと、別の会場で開かれた二次会にはほぼ全員が参加され、まず兵庫県今北耕司さんの司会によるカラオケから始まり、次第にテーブルを囲みながら再会した旧友と近況を話し合う同期生、懐かしい学生時代や楽しい寮生活を語り合う同期生などが多く見られ、時間を忘れるほど大変盛り上がり終了しました。ホテル側のご厚意で同期生が泊まった部屋からは、ライトアップされた明石海峡大橋がとても綺麗に見え、良い思い出になったことと思います。

翌日は世界文化遺産姫路城を見学

2日目は朝から雨が降っていました。この日の催しは世界文化遺産・国宝とされている姫路城の見学であり、午前8時過ぎにホテル前からバスで出発し、午前9時半頃に姫路城前に到着しました。バスの中では兵庫県小林徹さんの挨拶のあと簡単な日程説明がありました。姫路城の見学は、城内ガイド3人の案内のもとに各スポットを巡り、最後に大天守から城下を見下ろすことができました。姫路城を出てから城前のレストラン（高田の馬場）で昼食を食べ、最後に兵庫県今北耕司さんの挨拶で2日間の日程を終了し現地解散となりました。

実行委員の努力に感謝

参加者にインタビューをすると「近畿会場に参加して良い思い出ができた。こんな素晴らしい経験をさせてもらって、実行委員の皆さんにお礼を言いたい」という感謝の言葉をいただきました。また、別の参加者からは「近畿地区実行委員のおもてなしが有り難かった。この大会は成功だった」という嬉しい言葉をいただきました。

最後に実行委員長の長尾輝夫さんからは「近畿地区同期生10名が忙しい中であっても、一致協力して全国大会に取り組んだ意義は大きい。これを契機に全国の24期生がさらに深い絆で結ばれることを期待したい」と話されていました。私自身、この全国大会に協力して感じたことは、この24期生の同期会が鯉淵学園同窓会のモデル（模範）のように思えたことでもあります。これから同窓会の企画があれば、今回の24期生同期会を参考に取り組んでみたいと思います。

兵庫県支部会費納入者

平成 29 年 6 月 10 日から平成 29 年 9 月 19 日の期間で兵庫県支部会費（1 名 1,000 円）を納入していただいた同窓生（58 名）を入金順に掲載しました（敬称略）。

ご協力ありがとうございました。なお、同窓生の皆様からの会費は、支部活動経費として有効に活用させていただいておりますので、今後とも引き続きご協力・ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

今北耕司（24 期生）、谷口耕一（25 期生）、普光江文江（12 期生）、福井寛行（26 期生）、加藤 整（10 期生）、加藤定子（11 期生）、富垣淳生（16 期生）、大林幸子（25 期生）、甲谷克己（21 期生）、高見康彦（44 期生）、前田豊明（28 期生）、岸根秀明（36 期生）、岩本 佐知子（20 期生）、西田 博（25 期生）、高木経吉（22 期生）、小林徹（25 期生）、奥山隆治（4 期生）、小島好文（11 期生）、北垣裕之（42 期生）、木村毅司（33 期生）、山川和也（34 期生）、長峰年正（19 期生）、森友敏則（23 期生）、正木浩二（2 期生）、堀端俊造（3 期生）、豊田 潔（24 期生）、柴垣仁司（20 期生）、田中義治（23 期生）、栗山 要（1 期生）、橋本 篤（31 期生）、奥野直之（33 期生）、中野圭治（53 期生）、大字路子（23 期生）、奥田和夫（10 期生）、奥田孝枝（14 期生）、辻 伴子（27 期生）、戸田寮一（23 期生）、山根正行（28 期生）、長尾輝夫（24 期生）、小森英逸（31 期生）、田中智巳（36 期生）、孝橋利己（25 期生）、芦田靖司（44 期生）、鞍田三穂（13 期生）、井口成子（23 期生）、山本篤良（26 期生）、田中久隆（23 期生）、出店利彦（19 期生）、武久正篤（28 期生）、岡本昭治（31 期生）、岡本多恵子（31 期生）、近本恭洺（15 期生）、関口恵士（25 期生）、西浦英子（24 期生）、吉川千鶴子（24 期生）、新田義孝（31 期生）、近本昌博（43 期生）、大西美紀子（52 期生）

編集後記（平成 29 年 12 月）

今年は天候不順のうえ、台風の襲来で我が家の露地野菜は昨年と比べようもないほど不作でした。来年に備えて土壌改善をしようと思い、新たに田圃の土を入れることにしていますが、さて、来年の野菜はどうなることやら。

趣味としているランニングですが、運良く神戸マラソンが抽選であたり 11 月 19 日に走りました。4 時間台で完走はしましたが、年齢のせいなのか少し腰を痛めました。目標は古希まで元気で走ることです。

支部だよりに関するご意見・ご感想をお寄せください。また、住所・電話番号・職業等の変更があれば編集者まで必ずご連絡ください。

編集者：福井寛行（26 期生）

〒677-0038 兵庫県西脇市大垣内 44-2

TEL (FAX) 0795-22-1815 携帯 090-1022-2672

E-mail : hirokei-677@hera.eonet.ocn.ne.jp



近畿地区実行委員の皆さん



肩を組み寮歌斉唱

(文責：兵庫県同窓会支部 福井寛行)

岡本昭治さん(31 期生)が豊岡市議会議員選挙に当選

豊岡市清冷寺の岡本昭治さん（31 期生）が 10 月 22 日に投開票された豊岡市議会議員選挙で見事当選されました。その当選を祝して、鯉淵学園同窓会本部の会長九石 裕さんから御祝い状が贈られました。

岡本さんに近況をお聞きすると、「同窓生の皆様にご支援をいただいたことに大変感謝しております。12 月議会では豊岡市が推進している環境経済戦略、特にコウノトリの保護、増殖活動の取組みと農業への波及効果について質問をしたいと考えています。豊岡市内の同窓生を問わず、県内各地の同窓生の方々からご意見をいただきたいと思っています」と話されていました。地域を取り巻く環境が大きく変化してきているなかで、岡本さんの一層のご活躍を期待いたします。

